

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(8月31日～9月6日)

2021年9月15日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- チハノフスカヤ民主勢力代表のスロベニア訪問(8/31～9/3)
- 調整評議会のメンバーであるコレスニコヴァ・ズナク両氏に対し、10年以上の自由剥奪刑が宣告される(9/6)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ルカシェンコ大統領の誕生日に際する祝電

プーチン露大統領、習近平・中国国家主席、アリエフ・アゼルバイジャン大統領、サルキシヤン・アルメニア大統領及びパシニャン同首相、トカエフ・カザフスタン大統領及びナザルバエフ同初代大統領、ラフモン・タジキスタン大統領、ミルジヨーエフ・ウズベキスタン大統領、ジャパロフ・キルギス大統領、ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領、マドゥロ・ベネズエラ大統領から祝電が接到。

(8/31 大統領府)

●ポブルイスク第35学校開校式に出席(モギリョフ州)

大統領は要旨以下を述べた。

- ・ベラルーシとロシアは、どちらも主権を失うことなく最も緊密な関係を構築できる。
- ・ある国が別の国々を自らの一部とすべきではない。二つの主権国家として関係を構築すべき。
- ・ベラルーシ・ロシア両国軍は一体的であり、ベラルーシはその西部方面を構成している。
- ・近日中にロシアから飛行機が10機ほど、ヘリコプターが10機ほど、対空防衛の最重要装備(もしかすると対空ミサイルシステム S-400 さえも)が届けられる。
- ・米国はアフガニスタン情勢を悪用し、中央アジアと国境を接するロシアや中国の国内情勢を悪化させようとしている。

(9/1 大統領府)

●リャホフ国営「ベラルーシ石油公社(ペロルスネフチ)」総裁との会談

(1)大統領は要旨以下を述べた。

- ・国内での原油生産をせめて300万～500万トンに増産できれば、あらゆる依存から脱却できる。
- ・原発をもう1か所建設すれば、ベラルーシはエネルギーを完全に自給できる。

(2)リャホフ総裁は、ベラルーシ国内での原油生産量が毎年2万トンずつ増加しており、5年前には年産164万トンに達し、本年の生産量は173万トンとなる見込みであるとした上で、今後数年はこの規模の生産量が維持される見通しである旨付言した。

(9/6 大統領府)

【外交】

●9/1より、生体認証パスポートとIDカードの発行を開始

- ・生体認証旅券は、国外渡航に必要。国外渡航の予定のない者は、旅券を申請する必要はない。
- ・既存の有効な旅券であれば、特に更新する必要はない。
- ・IDカードは国内での人定に使用する。旅券申請にはIDカードが必要。
- ・IDカードには電子署名登録機能があり、電子形式での活動において法的に有効。

(9/1 ベラパン通信)

●中国外交部がベラルーシ外務省に無償資金援助を提供

9/2、マケイ外務大臣と謝小用・駐ベラルーシ中国

大使が贈与契約に署名。支援は機材供与に使用される。

(9/2 外務省、ベルタ通信)

●外務省は、新型コロナウイルス SARS-CoV-2 の発生源に関する米国の報告を非難

・報告は諜報機関の見解に基づくもので、中国が COVID-19 対策において国際社会と協力している事実を無視している。

・また、本件を政治化すべきでないという立場の 80 か国の世界保健機関(WHO)加盟国や 300 以上の団体が支持する中国・WHO 共同報告書を無視している。

・コロナ禍を政治化し、道具として悪用することは断じて受け容れられない。

(9/2 外務省、ベルタ通信)

【内政】

●非政府系団体・個人に対する捜査・閉鎖等

8/31

・鳥類保護団体「祖国の鳥類保護」に対し強制捜査。9/1 には、フェンチュク同元代表が逮捕。

・最高裁は環境団体「エコドム」閉鎖を決定。9/3、スヒー同創設者に対する家宅捜索。

9/1

・ミンスク市中央区裁判所は、Telegram チャンネル「ラズベリージャムつき紅茶」を過激主義に認定。同チャンネルは時事問題をユーモアを交えて取り上げており、14 万人が登録。

9/2

・ベレジンスキー・スポーツポータル Tribuna.by 記者に対する家宅捜索。9/6 にはマスロフスキー同記者が拘束。

9/3

・メリニコヴァ・環境関連情報サイト「グリーン・ポータル」編集者に対する家宅捜索。

・ゲラシモヴァ環境活動家が家宅捜索を受け、拘束

・国家保安委員会(KGB)は、カラチ社会団体「ナーシドム(我らの家)」代表をテロ関係者一覧に記載。

・ニュースサイト「メディア・ポレシエ」(ブレスト州)がア

クセス禁止に。9/4、国外ないし VPN 経由でのアクセス回復。

・ボグダノフ・アートセンター「コルプス」芸術監督兼代表ら同団体関係者 3 名が拘束。

9/6

・ニュースサイト「ラジオ・ラツィア」がアクセス禁止に。

(8/31~9/6 ベラパン通信、Zerkalo.io)

●調整評議会メンバーに対する判決

・9/6、ミンスク州裁判所は、調整評議会のメンバーであるコレスニコヴァ氏に対し、11 年の自由剥奪刑、ズナク氏に対し 10 年の自由剥奪刑をそれぞれ宣告(ともにババリコ元大統領候補の陣営の幹部)。

・ババリコ陣営は、最高裁への上告を発表。

・スタノ欧州対外活動庁報道官は、EU として遺憾の意を表明するとともにベラルーシ当局がベラルーシ国民の人権と基本的自由を軽視し続けていることを非難するとともに、ベラルーシ当局に対し、650 人以上の政治犯全員の釈放並びに国連及び欧州安全保障協力機構(OSCE)を通じてベラルーシが負っている義務を履行するよう改めて呼びかけ。

・ラフ英外務・英連邦大臣はルカシェンコ体制に対し、民主主義と自由のために闘う者らへの弾圧を止め、政治犯全員の釈放すべきである旨表明。

・プリンケン米国務長官は、このような判決はベラルーシ当局が国民の人権と基本的自由を無視していることを示すものであるとして非難するとともに、当局に対し、国民に対する弾圧の停止、政治犯全員の釈放、国民との対話を呼びかけ。

(9/6 ベラパン通信)

【治安・軍事】

●ベラルーシから周辺国への不法移民の急増

全般

・ポーランド国境警備隊は連日 90 人~150 人程度の不法越境を阻止。

・リトアニア国境では、連日 20 人~60 人程度の違法越境を阻止。

・ラトビア国境で不法越境により拘束された人数は、

年初から 377 人。8/10 にベラルーシとの国境地帯への非常事態宣言が発令されて以降、954 人の不法越境を阻止。

ベラルーシの動き

9/3、マケイ外務大臣は国営「全国テレビ(ONT)」によるインタビューにおいて要旨以下を述べた。

・ベラルーシは制裁に訴えることはしないが、対ベラルーシ制裁には相応の対抗策を取らざるを得ない。

・昨年 1 月、ベラルーシと EU は、査証発給簡素化及びビアドミッション(注:在留資格がないと判断された人物の再受入)に関する協定を締結しており、ベラルーシ領内に不法移民のための一時収容施設の建設や国境インフラの強化・整備のための一連のプロジェクトが実施される予定であった。

・しかし今年の時点で一部の国々が、本年 3 月には EU が、同プロジェクトへの出資を拒否した。ベラルーシは EU に対し、本年 4 月から不法移民問題に関する協議を提案しているが、EU が頑なに拒否している。移民問題に関して、EU 諸国は自らの国際的義務を果たすことを拒否している。

・ベラルーシが EU に対してハイブリッド戦争を仕掛けているとの主張は馬鹿げている。ベラルーシを悪者に仕立て上げ、自らの悪行を正当化しているに過ぎない。

・ベラルーシには対話する用意がある。いかなる問題も、冷静で相互に対する敬意に基づく、不自然な要求や脅迫のない対話によってのみ解決策を見出すことができる。

9/5、アルチャコフ国家安全保障会議次席書記は、ベラルーシ西部国境を巡る状況は緊迫しているのみならず、虚偽と不適切に満ちているとして、リトアニアが国境に塙を構築していること等を非難。

EU 各国の動き

・9/6、ポーランド議会は、ベラルーシと国境を接するポドラシェ県の 115 市町村及びルブリン県の 68 市町村への非常事態発令を承認。本措置は、ベラルーシからの不法移民急増に伴う治安維持が目的。

(8/24~30 外務省、全国テレビ(ONT)、ベラルーシ第 1 チャンネル、ベラパン通信、Zerkalo.io)

●ザイド・マフムド・パキスタン軍統合参謀本部国際軍事協力局長(少将)の訪問(8/29~9/2)。

・8/30、ヴォイノフ国防省国際軍事協力局長(少将)と会談。二国間の軍事協力の基本的な方向性、双方に関心のある分野における将来性につき協議。

・一行は軍事アカデミーを訪問し、軍幹部養成につき説明を受けた。また大祖国戦争戦史博物館を視察。(8/29、31 国防省)

●フレニン国防大臣は、独立国家共同体(CIS)共同空軍・防空演習を視察(9/1-2、於:露アストラハン)

(9/1 国防省)

●ベラルーシ国立工科大学(BSTU)に軍事学部開設。

(9/4 国防省)

【経済】

●欧州原子力規制者グループ(ENSREG)専門家グループがオストロヴェツ原発を訪問(8/31~9/2)

9/2、ティーツパナ団長は調査後の記者会見で、同原発のストレステストの結果を踏まえたベラルーシの国家行動計画が大いに改善されている旨指摘。

(8/31、9/2 エネルギー省、ベラパン通信)

●ユーラシア安定化発展基金(EFSD)がベラルーシ当局と、融資プログラムの可能性につき事前協議を開始。

(9/2 ベラパン通信)

●中国がロシアに次ぐベラルーシの食料品輸出先に

・2021 年上半期の中国への食料品輸出額は 1 億 5,600 万ドルで、前年同期比 1.5 倍。

・2020 年の対中食料品輸出額は 2 億 5,520 万ドルで、前年比 1.9 倍、2015 年比 13 倍。

・主な輸出品目は、鶏肉、乳製品、菜種油、牛肉、大豆油、チョコレート・菓子類等。

(9/2 農業食料省)

●石油・ガス・燃料産業従事者の記念日(9/2)

・プルドニコヴァ・エネルギー次官は、固形ごみを熱電供給用燃料として活用することを検討中である旨発言。

・クシュナレンコ国営「ベラルーシ燃料ガス公社」総裁は、ベラルーシ国内の泥炭総量が 24 億トンで、そのうち産業用に利用できるものが 3 億トン強あるとした上で、今後 100 年程度は十分に利用できる量がある旨強調。

(9/2 ベラパン通信)

●国家統制委員会は、ドイツ・チェコ・ポーランド各国製の洗剤 15 品目の品質が粗悪であるとして、ベラルーシ国内への持ち込みと販売を禁止。

(9/3 ベラパン通信)

●国営航空「ベラヴィア」がヨルダン・アカバ行きチャーター便を開設

・11/15 まで、9 日おきに就航予定。

・また同社は、9/18 からエジプト方面へのチャーター便開設も予定。

(9/3 ミンスク空港、ベラパン通信)

●日用品に対する価格統制が本年 12/31 まで延長

・9/1 付反独占規制・商業省決定第 59 号により規定。

・対象は鮮魚、肉製品、マーガリン、穀物、香辛料等。

(9/4 反独占規制・商業省、ベラパン通信)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表のスロベニア訪問(8/31~9/3)

・スロベニア政府の招待により、ブレド市での戦略フォーラムに出席。

・ヤンシャ・スロベニア首相、ロガル同外務大臣、ラマ・アルバニア首相、ジャチカ同外務大臣、ホイヤー欧州投資銀行総裁等と会談。

・チハノフスカヤ氏は EU に対し、東方パートナーシップがベラルーシに特別なアプローチを取るよう提案し、東方パートナーシップ首脳会談に民主勢力の代表者

を招待すること、協力プログラムの相手先をベラルーシの非政府組織に振り替えることを呼びかけ。

・同氏は、制裁対象企業やルカシェンコ体制の財源となっている部門が制裁回避を試みていること、ルカシ体制側が政治犯を小出しに釈放していることは、制裁が効果を上げていることの現れであるとして、EU に対し、圧力行使の継続と第 5 次対ベラルーシ制裁導入の重要性を指摘。

・また同氏は、ルカシェンコ体制が政治犯全員の釈放と名誉回復を行うまでは、体制側とのコンタクトを控えるよう呼びかけ、ベラルーシの危機解決の助けとなるのが自由で公正な再選挙であることを強調。

・ヴァールヘイ欧州委員(近隣政策・拡大交渉担当)との会談では、弾圧されている記者や非政府系メディアに対する支援を呼びかけ。

・グルリツチ=ラドマン・クロアチア外務大臣との会談では、政治犯とその家族の社会復帰支援プログラムの開始を提案。

・アウレスク・ルーマニア外務大臣との会談では、法の支配・司法制度の独立・腐敗対策を含む機構改革につき協議。

・ルノーバツソ欧州復興開発銀行 (EBRD) 総裁との会談では、同行の目下のまた将来のプロジェクト、並びに改革実行のための投資を含め、対ベラルーシ投資の誘致の可能性につき協議。チハノフスカヤ氏は、同行がベラルーシでの選挙結果の改ざんの後にベラルーシに対する新規取引を停止し、国営部門への出資を繰り延べているといった同行の姿勢に感謝し、民主的な変革によって同行がベラルーシで活動を再開できるようにする旨述べた。

・ルノーバツソ総裁は、同行が専らベラルーシの民間部門への取り組みに注力しており、国営部門に融資を向けたことはなく、今後もしばらくそのような予定はない旨述べた。

・チハノフスカヤ氏は、スロベニア・ポーランド・オランダ各国のメディアの取材に応じた。

(9/3 チハノフスカヤ氏公式サイト、ベラパン通信、Zerkalo.io)

【その他】

●ユーラシア統合に関する親政権有識者の発言

アヴドニン戦略調査研究センター(大統領直属)分析員は要旨以下を述べた

- ・ベラルーシ・ロシア連合国家はユーラシア圏における統合の手本。
- ・ユーラシア経済同盟(EAEU)加盟国だけでなく、アジア太平洋地域諸国もユーラシア統合に注目している。
- ・今後 2~3 年、アングロサクソン陣営との摩擦が深刻化し、ロシアや中国であっても一国で耐え抜くことは厳しい。より強い統合が必要であり、まずは経済・財政面で統合し、その後政治・安全保障面で統合すべき。

(9/3 ベラルーシ第 1 チャンネル)

●ロシアから COVID-19 ワクチン「スプートニク・ライト」25 万回分が到着

- ・ピネヴィチ保健大臣は、同ワクチンが追加接種、回復者や 23 歳未満への接種用に認可されているとした上で、学生が接種可能となることへの期待を述べた。
- ・また同大臣は、国営製薬会社「ベルメドプレパラティ」での同ワクチン生産が間もなく始まるとの見込みも示した。

(9/3 保健省、ベラパン通信)

●中国から中国「国薬集団(Sinopharm)」製ワクチン 150 万回分が到着

- ・うち 50 万回分が中国からの無償援助による提供分で、100 万回分は調達契約に基づくもの。
- ・翌 9/6 に引渡し式が行われ、ピネヴィチ保健大臣と謝小用・駐ベラルーシ中国大使が出席。同大臣は、2~3 日後にはワクチンを各地方へ配布することになる旨述べた。

(9/6 保健省)

(了)